

テレワーク導入 通勤時間大幅短縮

デザイナーが県内外から集結 毎期増収増益

3人の子どもの育児を経験

働き方を見直す契機に

岐阜市で Web 関係の会社を起業するにあたり、採用力を上げるため、創業時から裁量労働制を導入するなど働きやすさを重視し、通勤ストレスも少ない、地方ならではの生活のメリットを感じることでできる働き方を実践してきました。その延長線上にテレワーク導入があります。大きな転機は、2017年1月に3人目の子どもが生まれたことでした。2週間の育休を取り、育児を経験する中で、生産性を高めつつ、働き方を見直そうとより一層考えるようになり、すぐにテレワークも導入しました。

人材確保と社員の士気が向上 離職者は2年間ゼロ

今年1月に開設した名古屋支社は、テレワークの新しい形として、営業拠点ではなく、名古屋周辺に在住する社員の通勤時間を短縮するための制作拠点です。これらの取り組みを通じて、昨年3月まで10名だった社員は今年4月には22名になり、現在の社員の半数は移住者です。また、直近2年間での離職率もゼロです。人材確保と社員の士気向上の結果、現在では毎月30件ほどの問い合わせも入るようになり、毎期増収増益となっています。



テレワークを導入した
株式会社リーピーの川口聡社長

ライフイベントに合わせた理想の働き方

「一人一人の生活が一番大切」

柔軟性に富んだ働き方

入社当時は独身で、自分にとって理想の働き方がどのようなものかまで考えていませんでした。しかし、子育てをしながら働く代表の川口と出会い、「一人一人の生活が一番大切である」という思いにも共感し、私の考え方も変わってきました。今は結婚して子どもも生まれ、環境が変わる中で、自分自身の求める働き方も変化してきました。働き方に柔軟性のある会社を選んで本当に良かったと思っています。

テレワークを利用した職場環境 負担が軽減し、安心感を得る

やむを得ない事情でオフィスへの出勤が難しくなることもあります。テレワークで仕事ができることは、負担が軽減され、安心感にもつながっています。逆に、オフィスへ行けないという理由で、仕事を続けられなくなることは会社にとっても社員にとっても不利益です。テレワークを導入したり、制度を設けたりすることにより、課題を解消できることは多々あります。これからは時間や場所を選ばない働き方を求める人が増えていくと考えられ、多様な人材を受け入れる仕組みづくりが会社に求められていると感じます。



テレワークを実際に利用している
鬼頭慶多さん